

第7章 今後の研究開発の展望と課題

第7章 今後の研究開発の展望と課題

1 「満点追求コース」のコースパッケージ作成とコースの普及

「フライス加工高度熟練技能を目指す満点追求コース」は試行実施を通して、その有効性が確認でき、改善点も明らかにできた。今後は、このコースを広く実施して熟練技能者養成に生かしていくことが望まれる。そのために当プロジェクトの仕事として成すべき課題は、コース実施のための教材等を供給すると共に、コースの紹介と進行のための解説などを整備することである。実際にこのコースを行うためには、技能五輪や技能グランプリの経験者、その選手育成の経験者など、「満点追求」の指導ができるだけの高度熟練の指導者を必要とする。そうした人材はどこにでもいるというわけではないが、非常勤の講師として手配することは可能である。公共の訓練施設などでは、そこの指導員がコース進行役となって非常勤講師を手助けすればよい。そうしたケースを想定して、コースに必要なものや進行のノウハウをひとつのパッケージにまとめようとしている。

2 コースシリーズの他のコースの実施

上記のコースパッケージというような教材や課題その他を含む整備というところまで考えると、このプロジェクトの仕事は未完である。なぜなら、結論として得たコースシリーズの構想の全体が試行とパッケージ化までは至っていないからである。今回実施した「満点追求コース」以外の各コースも、普及のためのパッケージに作成するためには実際に実施しなければならないだろう。残念ながら今回のプロジェクト計画期間中にはそれらの仕事にまで進むことができなかった。しかし、条件が整い次第それらの課題には直ちに取り組むことが望ましい。

3 高度熟練技能支援コースの他の技術分野への拡大

今回のプロジェクトは、具体的な成果を得るために技術分野を機械加工、それもフライス系加工に限定し研究し、コース開発をした。しかし、我々の描いた熟練技能形成支援の基本的構想は他の熟練技能にも共通するものであると考えられる。例えば、すぐ隣の領域といえば機械加工のなかで旋盤の技能がある。これはこれで高度熟練技能者を目指すコースシリーズが構想されて良いはずである。また恐らく機械加工分野だけでなく、板溶系の技能に関しても、同じ問題意識から研究開発が求められるのではないだろうか。

4 OJTの改善整備に関する研究

既に述べてきたところであるが、真の意味での高度熟練技能者というものは高度なレベルの仕事のなかで育つ。今回のプロジェクトの仕事は、そのことを踏まえつつOJTを支援するOff-JTを追求することをターゲットにした。したがって、当のOJTそのものがどの

ようなものであるかが高度熟練技能者が育つためのもうひとつの重要な条件であることは言うまでもない。日常の仕事のなかで人材育成がどれほど自覚的に追求されているか、仕事の与え方、評価の仕方、指導のあり方等々、OJTとして整備されているかどうか、Off-JTによる支援を受けた後の熟練者としての成長を左右することは言うまでもない。今回のプロジェクトとは違った方向での研究開発となるではあろうが、OJTの整備に関する実践的研究が重要課題であると考えられる所以である。